たもつバカな激ウケ生活～毎日の生活～

たもつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
たもつバカな激ウケ生活～毎日の生活～

【Ｎコード】
Ｎ８５１５Ａ

【作者名】
たもつ

【あらすじ】
小説と言うより毎日のウケ話を書いてきます。（ウケなかったらすみません）友人とのバカな毎日を楽しんで読んでください。初日は日記のつもりでしたが、今まで生活してきたウケ話を書くことにしました！この話はつまらなかったや面白かったなどの評価かを是非していただければ次話からの参考にしたいと思いますのでよろしくお願いします。

8月19日（土曜日）

8月19日（土曜日）

今日からオレの小説と言うか日記？が始まった。
今は夜中の2時を過ぎようとしている。今日はオレの友人（じゅん）が家に来ている…なぜかパンツ一丁で…

オレの友人（じゅん）はメガネをかけていて天パ。　笑
見るからにオタクのような奴だが実は顔自体はカッコ良くかなり面白いやつ。（面白いと言うよりバカ？）
先日もファミマの制服を着てローソンに殴り込み…店員は目が店（笑）
他の客はこっちをみてクスクス笑っている。一緒にいるオレが恥ずかしい。
そして友人（じゅん）は堂々と買い物をしていったのだ。
今日はこのくらいにしときます…

先日の事

オレはいつものように暇をしていた。
その日はもう夜の１２時を回っていた。そんな時いつものように友人(じゅん)が家に来た。もちろんパンツ一丁…
そしてもう１人の友人(テリー)もきた。友人(テリー)も顔は良い方でマッチョだ。しかしこいつも生粋のバカ。（笑）いつもオレの頭を悩まさせてくれる奴だ。
オレは２人に異変があることに気づいた。
「お前らなんでそんかキモイお面もってんの？」

「買った！」

２人はいった。買った事なんて誰でもわかるだろ！なんでオレの家に持ってくるんだ？と聞いたかったはずなのに…
もうバカだから話をしても拉致があかないのでこの疑問は心の奥にしまっておいた。
すると友人(じゅん)は言った。
「暇だからピンポンダッシュしにいこうぜ！」
お前は小学生か！？と思いつつも決行する事にした。

あの時のおばちゃん……ごめんなさい……（笑）

とりあえずタバコをふかしながらその辺をぶらぶらしていると、２人はそそくさと歩いていきなんのためらいもなくインターホンを押

した。

「ピーンポーン…」

オレはそれを少し離れたところでみていた。

まさかあんな事をするとは……

2人はなぜか住人が出てくるまでインターホンを押し続けている…

するとその家の扉が開いたとたんにおばちゃんのバカデカい叫び声が聞こえた。

「キェェェェーーーーーッッ！！」

オレはそこまで走っていくと友人が玄関の前で立っている……

……キモイお面をつけて……

コレは誰でも叫んでしまうだろう（笑）オレは、

『このためのお面か…』

と一人で納得をしてしまった。

そしてオレたち3人は歩いてその家を後にした。

もうピンポンダッシュじゃない『ピンポンウォーク』だ。（笑）

そのまま3人は１０分程度外を散歩していると曲がり角でパトカーとばったり。

いつもなら職務質問ぐらいで終わるが、ちょっとまて……こいつらまだお面かぶってやがる！

明らかに変質者だ！何もしていないが捕まるのは面倒だ。
オレたちは逃げた…走って…カール・ルイスのごとく（笑）
お巡りさんももちろん追いかけてくる。
なぜか走って…（笑）
「止まれーーっ！」
逃げたんだから止まるわけないでしょうが。

しかし意外とお巡りさん速い…

だがオレたちはもうカール・ルイスだ…

オレたちは運動神経は良い方なのでなんとか逃げ切り家に帰った。

意外と面白かった夜だった。

夏の夜

あぁ…暑い…夜なのに暑苦しい…

オレは友人(じゅん)の家にいる。今日は2人ともパンツ一丁だ。（変な関係はもっていない。）

オレたちはタバコをふかしながらオットセイのごとくダラダラしていた。今のオレたちはオットセイよりオットセイしているだろう。（笑）

しばらくオットセイしていると…

ダダダダダッダンッ！！

「とぉーーっ！」

いきなり友人(テリー)が友人(じゅん)の部屋に飛び込んできた。

『勝手に人の家に上がり込んでくる非常識な野郎だ。』

自分の家でもないのに心の中でつぶやいているオレがいた。

ふと友人(テリー)を見た時オレは街中を歩いていていきなりアントニオ猪木に背後から延髄蹴りを喰らったぐらいビックリした（笑）

友人(テリー)は海パンにゴーグルをつけているではないかしかも水泳帽子までかぶってる…

た

「お前気でも狂ったのか？」

間違えた。こいつは元から気が狂っている。
た
「何してんだ？」
オレはもう一度質問をし直した。
テ
「たもつ！じゅん！プール行こうぜ！」
大体予想はついたよ。だってその格好してるもん…丁寧に水泳帽子
までかぶってるもん…
じ
「いくぜぇー！ちょうど暑かったんだよ！ちょっと待ってて！」
行くんかーい！

しばらくしたらいつの間にか友人（じゅん）も友人（テリー）と同じ格好してるし…

もちろんオレに拒否権などなく某高校のプールへ侵入した。
そこでオレは自分の海パンがないことに今更気づいた。

『今まで気づかなかったなんて…あいつらのバカウイルスがオレに
感染しはじめている……ヤバい…』
そんな事を思いながらウイルスの元凶どもを見ると…
海パンぬいでるし……ゴーグルと水泳帽子はつけたまんまでプール
にダイブしてるよ……

聞くところによると替えの服をもってないからだと…そんでもってビチョビチョで帰るのは自分たちのポリシーに反するからだと言う。
もうツッコミどころ満載だがあまりにも暑かったのでツッコミをしずにオレも全裸でプールへ飛び込んだ。

『冷たくて気持ちいい…』

オレはそう思いながらプールの真ん中あたりで浮いていた。
右横を見てみると友人(テリー)がもの凄い速さでバタフライしながら泳いでるし……（笑）

左横を見ると友人(じゅん)がちゃっかりシャンプーしてる……
もうどうにでもなれ！

かれこれ一時間くらいオレたちはプールで楽しんで友人(じゅん)の家に帰宅した。

それからオレたちは暑い夜はたまにプールへ行っている…
もちろんバカ2人はなぜか水泳帽子をかぶったままで全裸だ……
（笑）

全裸で泳ぐのが一番気持ちいいらしい……お前ら気持ち悪っ！（笑）

オレはあの日以来は海パンを持ってきている。

夜のプールとても気持ち良いので読者の皆さんも体験してみて下さい。

やみつきになりますぜ！ダンナっ！（笑）

たもつのちょっとさみしい話？（前書き）

これはオレにとってちょっと寂しい話。実話物です。今回はコメディーじゃないかもしれません…皆さんにとっては寂しくなんかないかも知れませんが読んで戴けたら話の内容を評価して下さい。

たもつのちょっとさみしい話？

これはもう何年も前の話…
オレがまだ高校生の頃。

オレの家には痴呆症のじぃちゃんがいる。
いつからだっけ…痴呆症になったのは…
大好きだったじぃちゃん。チャリ漕ぐのめちゃ速かったじぃちゃん
…（笑）今も大好きだ。

ある日の夜オレは母親から
「じぃちゃん明日から老人ホームに行くで」
と聞かされた。
いきなりで驚いた…
た
「はっ！？」

母親はそれだけ言って寝室に行ってしまった。

なんでだ？

母親の気持ちもよくわかる。毎日じぃちゃんの面倒を見てくれてる。
ストレスで抜け毛が激しくなっているのもしっている…そしてその
髪をまた自分の頭皮に植え付けている事もしっている…

だからオレは家にいる時だけでもじぃちゃんの世話をした。

でも…老人ホームって…もう一緒に住めねーじゃん。

しかもオレ夜から大事な用があって朝いねぇし…別れの言葉も言えねぇよ…

オレは夜の１２時頃、出ていく前にじぃちゃんの部屋に入った。じぃちゃんはぐっすり寝ている。白目むいて…（笑）

オレはじぃちゃんに小さな声で

「じゃあね」

と言って家をでた。

その日はとても星がキレイな夜だった。

オレはしばらく星を見ながらじぃちゃんが痴呆じゃなかった頃の事を思い出していた……

小さい時オレが寝れなかったらじぃちゃんKトラでオレがつかれて寝るまでドリフトを連発して楽しませてくれた。横転しそうになった回数は数え切れない…

風邪をひいた時はじぃちゃん特製の激マズお粥を作ってくれてオレの風邪をもっと酷くした事もあった…一体何が入っていたんだ？

中学生の頃に１対３で高校生と喧嘩して負けそうな時にいきなりじぃちゃんは現れてそいつ等を気絶させ病院送りにした……気絶した理由は謝っている高校生に屁をかけたからだ。よっぽど臭かったのだろう…

そんなバカなじぃちゃんが大好きだった。

じぃちゃんが行く老人ホームは県外でその時のオレには会いに行くことはできなかった…

気付くと目からしょっぱい液体が一粒だけこぼれた…

オレはしょっぱい液体を手で拭って夜の中に走っていった。

じぃちゃんは今も元気に老人ホームできている。オレは月に一回は顔を見せに行っているが、じぃちゃんはオレが誰だか知らないだろう…

けどいいんだ！じぃちゃんといると楽しいから！辛い事も悲しい事も忘れれるから…

恋の２０％事変（前書き）

この話は高校生だった頃の話…

コメディーじゃないかもしれません。

恋の２０％事変

オレは某農業高校に進学した…

オレたちの高校ではクラス替えはなく卒業までＡクラスだ。

この時のオレはある事情があり中学卒業と同時に彼女とわかれたのだ…

（この話はまた後日書きたいと考えてます！）

別れたばかりのオレは１人の寂しさと葛藤を続けていた（笑）

そして入学式…オレの斜め前方にとてつもなく光ったオーラが見えた！

女……女神だ…

オレは同じクラスのＭ子にホレてしまったのだ！いわゆる一目惚れってやつだ。

背は小さめで目が大きくてとても可愛い子だ。

Ｍ子はオレの心とストライクゾーンをＭＡＸ自己最高の１６２キロのストレートで打ち抜いたのだ（笑）

その日からオレの山あり谷あり富士山級の山あり……の生活が始まった！

オレは高校で、できた友人からアドレスを教えてもらいメールをす

るようになった！

何日もメールをし、オレはとうとう告ってしまったのだ！

へ…返事は……？

やっっほーい！！！やったぜー！付き合っちゃったよ！
オレでいいのか？こんなオレでいいのか？と何回もM子に聞きその度にM子はいいよ。と言ってくれた。

その時のオレはもう隙だらけのバカな男になってしまっていることに気づきもしなかった……

M子と付き合って2ヶ月が過ぎ、ませ餓鬼だったオレはM子に大事な息子を捧げる寸前まできていた…
2人の仲が親密になっていくにつれてオレはM子の虜になっていった…

そんなある日オレの家でM子は寝てしまった。暇すぎたオレはなぜか1人でM子の携帯にメールを送った。

そこでお茶目なオレは気づいた！
『この行為…キモイかな？キモイとおもわれて振られたらどうしよう…』
バカな事をしていると気づいたオレは知られたくないのでM子の携

帯で自分のメールを消去しようと思いM子のメールボックスを開いた。
他人の携帯だったので慣れてなかったオレは間違えて違う奴のメールを開いてしまった。

ん？なんだこれ？
昨日の夜のメールだ。ケンジって奴からか。

ケ【今から家行くで！】

なっ！？なに！？！？
次は…

ケ【ついたよ！】

はぁぁぁぁぁ？？

見たくない…けどここまで見てしまったら気になる…つ…次は…

ケ【今日は楽しかったよ！ありがと。】

オレの怒りの魂に火をつけた。原爆級の大きな代物に…

ってかM子断れやーい！遊んでんじゃねーよ！

とりあえずM子を叩き起こしこのメールの事をきいた。

M子は明らかに焦っている…
必死に弁解しているが噛みまくっている…（笑）

そしてとうとう泣き出した！

ヤバい！こんな可愛い子泣かして信じるか！なんて言える訳がない！
あぁ…結局M子を信じてしまった…

あぁ……なんてバカな男だろう…なんでこんなにもM子を好きになってしまったのだろう…

オレはどんな事があってもM子と別れたくはなかった。
あぁ…ホントオレっておバカさん…（笑）あの時別れていればもっと苦しむこともなかったのに…

その時のオレはM子を許してしまった…

だけどね…
ケンジくん…キミは許してあげないよ。
一生女と顔も会わすことができないくらいボコボコにしてあげるから（笑）それから原付に紐くくりつけて町中引きずりまわってあげるから（笑）

その日からオレはなぜか八つ当たりともとらえられるケンジの制裁

について頭を悩ましていた…

そんな時、中学からの親友(テリー)からこいつらしくないごもっともな意見がでてきた。

テ

「ケンジって奴お前らが付き合ってる事知らなかったらただの被害者じゃね？」

た…たしかに……

その後ケンジって奴はオレたちが付き合ってる事を知らなかったらしくオレはケンジへの制裁をあきらめた。

オレだってちゃんと筋通ってない事はやらないさっ！

この事件がオレの頭から忘れさらろうとしたとき、２０％事変がとうとう起きやがった！

ある放課後オレは中学から唯一心を開いている女の子(ちい)に教室へ残るよう言われた。

女の子(ちい)はＭ子ともかなり仲がよくなんでも話し合う仲だった。

そしてオレはその日の放課後、女の子（ちぃ）から思いがけない言葉を聞くこととなった！

ち

「たもつ。落ち着いてきいて。今日M子から聞いたんだけど…M子………5股してるらしい。」

あぁ5股ね！そんな5股ごときで気が狂うオレじゃねぇよ（笑）

ってはぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ？5股ってなんだよ！2股はまだわかるけど5股って…とりあえず多いよ！M子毎日が多忙だよ！ってかオレM子からしてみたら20%の男じゃん！20%×5人で100%ってか？（笑い）

笑わせるんじゃねぇ！！！

………………………………………………

信じたくねぇ…けど女の子（ちぃ）は絶対嘘つく子じゃねぇ…

やっぱM子は…

前にも事件あったしな。考えられるよ…

その日オレはM子に真相を突き止めた。

当たり前のように白を切るM子…

もぉいいよ…5股されても別れたくねぇ。

けどオレはそこまでバカのように許せる男じゃない。

やるときはやる男だ。

オレはM子に別れを告げた…

M子は白を切るので適当な嘘をついて…

嫌だった…ホントに別れたくなんかなかった。けど別れなくちゃいけないんだ。

早くM子の事忘れないとオレは頭がどうかなってしまいそうなんだ…

そしてオレたちは別れた。

その日からオレは1ヶ月近く放心状態だったらしい（笑）

けどこんな体験も経験にはなったさ！ありがとうM子。今までで一番好きな女…

もう他の男にはやるんじゃないぞ！

（臭い事言ってるかもしれませんがホントにその時はそうおもってました。）

その後オレの他、4人の内オレたちが付き合っていた事を知っていた奴に制裁を与えたのは言うまでもない…（笑）

人を好きになることはとっても良いことだし、これからの人生の教訓にもいつかはなると思います。

けどオレみたいなバカな男にならないように気をつけてください！（笑）

浮気される事はホントに辛いです…

浮気してる人はこの話を読んでくれてやめてもらったら嬉しいです！

勘違いしないでね！

去年の冬…事件がおきた……

忌まわしい事件…

その日友人(じゅん)はオレの家に遊びに来ていた。当時は冬なのにも関わらず友人(じゅん)は家についた途端にパンツ一丁になった…（笑）

オレたちは雑談をしている内に眠たくなってしまい2人ともコタツに入ってねたのだ。

オレは夢をみた……

夢の中ではオレの愛犬（伊佐次郎）メスがとてつもなく可愛い顔でオレを見つめてきた。

そんな愛犬（伊佐次郎）をみたオレは無性に愛犬（伊佐次郎）をなでたくなったのだ。

なでなで……

た

「伊佐次郎〜よしよし…」

なでなで……

あぁ…伊佐次郎の毛はすごいフワフワして気持ちいいなぁ…

なでなで……

あれ？伊佐次郎いきなり体がゴツゴツしてるぞ？

オレはその時に目が覚めた。

オレは夢の中では伊佐次郎をなでていたのに友人(じゅん)をなでていた…

それで友人(じゅん)もオレと同時に目がさめた……

た・じ

「ギェェーーーーーーーーーーーーー！！！！」

気持ちわりー！！なんでオレが男の体なでてんだよ！しかもこいつなんでパンツ一丁なんだよ！！

じ

「たもつ…お前まさか…アッチ系か…？近寄るなー！！」

た

「ち…違う！伊佐次郎をなでてたんだよ！」

じ
「伊佐次郎なんかどこにもいねぇだろぉがぁぁぁぁぁ？」

バコッ！！！

た
「うへっ！」

こいつ…殴りやがった…

た
「何すんだよ！？」

じ
「近寄るなぁぁ！」

た
「誤解だぁぁー！」

バキッ！バコッ！

た
「うへっ！ひでぶっ！」

……

その後オレは友人（じゅん）にボコボコにやられた……

オレの話も聞かずに…痛かった…

とりあえず落ち着いた所でオレの誤解を解くために友人(じゅん)に夢から現実までの話をすると、友人(じゅん)は必死に謝ってきた。

痛かったけど誤解が解けてよかった…

けどやっぱ痛かったので後でやり返しました！（笑）

ホントにオレはアッチ系じゃないので読者のみなさん誤解しないでください！（笑）

いやー夢とは怖いものですね…次の日の朝オレの顔はアンパンマンのように膨れ上がってました…（笑）

友人伝説～第1章～　（前書き）

久しぶりの投稿になりました！

楽しく読んで頂けたら光栄です！

友人伝説～第1章～

夏も終わり、肌寒い季節の頃の出来事…

オレはゴロゴロしていた。

朝から晩までゴロゴロしていた。

目が回った…（ウソ）

さんざんゴロゴロし、夜になってしまったのでとりあえず友人(じゅん)宅に行くことにし、オレは愛車(ママチャリ)にまたがり激走した…

風をきり、たまに顔に虫が当たってもめげずに激走した…

１１時頃に友人(じゅん)宅の近辺までいくと、街灯の下に４人ぐらいが固まっていた。

よーくみてみるとそれは友人(じゅん)だった。

後の３人は友達だろうと思いゆっくり近づいていくとなんか友人(じゅん)の愛車(ママチャリ)がボカンボカンと蹴られている…

そして……

「オラッ！金出せや！金っ！！」

……

たかられてるー！！

あれは友達なんかじゃない…ただのヤンキーだ！

オレは心の中で

『悪い…幸運を祈る…』

とささやき近づくのをやめた。

そして友人(じゅん)はゆっくりと財布からお金を出した。

５００円玉を…

やすっ！！

ヤンキー３人組は

「あぁ？お前なめてんのか？」

と、言い出しさらにママチャリを蹴りだした。

すると友人(じゅん)はとうとうキレた！

友人(じゅん)は暴力は嫌いだがキレたらもうヤバい！

何がヤバいってそりゃもうヤバい！

下痢でもう我慢できないときに急いでトイレに行ったら、先に入ってる人がいてあぁぁぁぁ～！

って時ぐらいヤバい。

友人(じゅん)は自分がキレたらどうなるかわかっていたためたかられても我慢をしていたのだ。

オレは急いで友人(じゅん)をとめに行った…

遅かった……

ヤンキー3人組はみんなのびていた。

だが友人(じゅん)は止まらない…

５００円玉を3人の鼻の穴の中に押し込もうとしている…

た

「じゅん！さすがに入らんだろ…」

友人(じゅん)はオレが言っても諦めようとせず押し込んでいる…

入った…

鼻の中でかっ！！

1人目の片方に５００円玉が入り、もう片方に入れようとしたとき、

ウーーー！！！

ポリちゃんがきた！

こりゃまたヤバい！

オレは頑張って鼻の穴の中に５００円玉を詰めている友人（じゅん）を正気に戻らせ、愛車に乗って逃走した。

友人（じゅん）宅につき、正気に戻った友人（じゅん）の第一声は…

じ

「カ……カゴが…」

友人伝説～第1章～　（後書き）

今後の参考にしたいと思うので感想などお願い申し上げまする。

申し訳ござぁーやせんした！

どぉーも（＾－＾）／
たもつです。
一年近くの放置プレイはいかがでした？
読んで頂いてもらってた方本当に申し訳ござぁーやせん！！
本当にござぁーやせん！！！
これから頑張りますのでよろしくお願いします。
ずっと更新しなかった理由はかなり私的な事情です。
それはまた別の機会の時に書こうと思います！！
友達もこの小説サイトで執筆してるんですが、いつ見ても面白いね！！
羨ましいです…
たもつにもあんな文章力が欲しいと思う今日このごろ…
ではまた！！

てこんな少ない文章で終われるかっ！！！！
って話ですよねσ（＾◇＾；）
てかもぉ小説じゃないですね（。д。；）

これ注意されて消されないかちょっと心配ですね！

んー…

恋人が欲しいです…（笑）

たもつなんかで良い人はいつでもコメントしてください（笑）

なんかホント小説じゃないですよね…

次回からはちゃんと小説っぽくするんで今回は勘弁しておくれやす☆（笑）

話は変わりますがたもつは今一人暮らしをしておるのです。

一人暮らしは寂しいですね…

炊事、洗濯、掃除、全て一人なのです。

親のありがたみがよくわかりますね！！

ありがとう！！マイマザー！！

たもつは元気でいますよ…

ちょっと痩せましたよ…

お金がないですよ…

パチンコ、スロット行っちゃうからですよ…

はやくエヴ〇ンゲリオンの新しいやつやりたいですよ…

お金がないからひもじいですよ…

服も買えないですよ…

孤独ですよ…

ぶっちゃけ実家戻りたいですよ…

ちなみにたもつは大学生ですよ…

はぁー

今回はこれにて…

申し訳ござぁーやせんした！（後書き）

ヘルプミー！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8515a/

たもつバカな激ウケ生活～毎日の生活～

2010年10月9日11時18分発行